

滑川宿のまちなみ保存と活用にかかわる人・ささえる人

小森忠 富樫豊

1. はじめに

滑川宿の保存と活用の運動が 10 数年前から始められ、今では訪問者・来場者を含め関わる人・支える人等により派手さもあれば渋さもある街が息づいている。

本稿では、滑川宿の活動について、街の内外からの頑張りや楽しみ参画・享受の面にスポットを当て、街に熱く関わり支える方々を介して街の息づかいを紹介したい。

2. 街にて商う人

2.1 街に移住者して商う

宿場町で 2017 年に入り移住者が商店開設して頑張っている。

(1)東京からの若い移住者がレストランを営んでいる。道路に面した家屋には玄関と厨房があり、家屋の後ろにある土蔵はリニューアルされ、おしゃれな客空間となっている。凝った料理が話題を呼んで若い女性客が平日にも店外に長蛇の列をなしている。何かおしゃれな若々しさが街を楽しく賑わせている。(写真 1)

(2)県外からの移住者が空き家を購入しリニューアルさせて古本屋を営まれている。ハイパーは芸術関係であるので、その道のプロが県内外から多々やってきて、街にはどことなく芸術の風がなびいているかのように感じられる。(写真 2)

2.2 通いで小間物を商う(写真 3)

旧宮崎酒造の空き地を挟んで隣の「じんでんや」では、数年前から市内在住の方が通いで小間物(民芸品)を扱う商店を営んでおり、老若男女の客を集めている。

当該家はもともと金物屋として営んでいたもので、お店はリニューアルせずに、女性店主好みで品物が陳列され、伝統空間が今日的なファッションで息づいている。

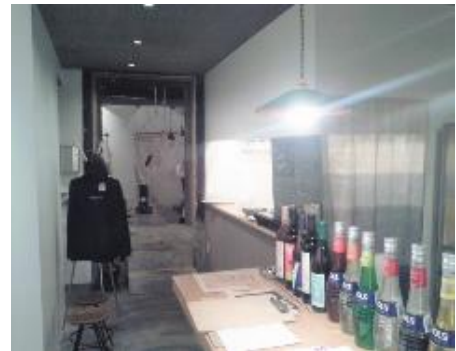


写真 1 レストラン、奥は蔵の客空間



写真 2 古本店

3. 周辺からの地道な活動に参加・支持

3.1 行政の施策では

小さな市域であるためか、街づくりの世話人たちがたまたま市職員であって、観光に関する施策にも街づくりの観点からアイデアを形にしていた。10 数年前前、行政は宿場域の観光整備として宿場回廊の看板を 13 個設置した。看板は道端でポンと置かれるものではなく、街歩き者が看板もゆっくりと見られるように看板前空間も兼ねたポケットパークが実現した。これによって、街道そのものはいかに及ばず街に点在する国指定文化財建築が目に見えないネットワークで結ばれ、街歩きが安心してゆっくりと鑑賞できるようになった。当初は歩き客が少なかったものの、次第に幅広い年齢層の方々が街に訪れ、週末には結構な人が繰り出している。(写真 4)

なお、訪問者には街道が好きとか、街そのものが好きとか、町家が好きといった歴史観光ファンが多い。そうしたファン心を滑川宿が満たしてくれるといえよう。

3.2 観光協会活動でも

NPO 保存会とタイアップを常に念頭に置いて県内外の老若男女の訪問者に街歩きのツアーを実施している。開催頻度は年数回ほどのようではあるが、好評を得ているという。今年からは初の試みで、滑川宿をコースにいった自転車ツアーが始まり、10 月にサイクリングが街の風情を堪能していたという。

今後に向けては、スマートフォンを活用して、道順や解説は言うに及ばず、建物やお祭りの様子が画像表示で色を添えるようにしたいとのことである。そう語る協会メンバーももちろん市内在住であり、かつては保存会にも属していたが、今は観光協会一本でタイアップを心掛けているという。

4. 各地からの来訪

4.1 専門家の来訪(写真 5)

県内外の専門家が宿場(旧宮崎酒造)に集まる講演会・シンポジウムを多々開催している。なぜ宿場の町家で開催するのか。本来なら、開催場所の条件は交通の便が良く、施設設備が整っていることを必須としている。にもかかわらず、あえて滑川宿での開催には意味がある、というよりも意味を持たせている。



写真 3 小間物屋



写真 4 案内板ポケットパーク、人通り

すなわち、講演会・シホ^①にはごく普通のでたちの街で様々な方々が集まって、議論に華が咲くというのも街の知的交流の場としての様相をつくりだすし、そうすべきといえる。

確かにここ数年の様子を見ていると、街空間としても来訪の専門家の結集により、宿場には学術的な香りが確かに漂っているし、街の人と来訪者がつながりあるかのようにもなっている。また、建物的には重厚な大空間の醸し出す独特の雰囲気はこれまた議論に華を咲かせ、何よりも来訪者に大空間体感を可能にし、自然による快感を享受できる。ちなみに、暑い夏場なら、風通しにより室内温度環境(外気より3度程低)が実に心地良く爽快な気分させてくれる。

4.2 ランナー来訪（街を走り抜けていくランナー、写真6）

滑川市では毎年10月にホルカマラソンという市民マラソン大会があり、市内外から数千人の方々が集まり、マラソンを楽しんでいる。コースは宿場街道に設定されているので、この時とばかり街道風景が昔の参勤交代から今のアスリートの疾走に変わって、ランナーの熱気で充満といったところである。そしてまた、ランナーは宿場街道を走って風情を堪能するとともに、沿道の街の人との応援というコミュニケーションを互いに楽しんでいるという。

5. NPOの人や街の住人

5.1 遊び心のNPO人(ひな祭りにて、写真7)

各家庭で肩身の狭い思いをしている「おひな様」を一堂に介して楽しんでいる。ここ数年ではおひな様20セットともなり、光景はますますきらびやかであり圧巻となっている。また、各家庭の不揃いなおひな様については、これを一堂に集め、ちょっと遊び心で人形にお椀を持たせて酒飲みイメージをもたせ、こうした人形4-5人ほど円陣を組むようにして適宜配置したところ、これが大いに受けていた。おひな様を介してリットな遊び心が皆さんのお祭りとして花を添えていた。



写真5 旧宮崎酒造での講演会



写真6 街を走るランナー、合成写真



写真7 宴会モードのおひな様

5.2 訪問者に声かけの街住民

滑川宿では残念ながら空き家が多く、住んでいる人は少ないが、そのうちの一人が街を歩く観光客や市民の方々に、(暇をひねり出して)声かけされている。なかなかできないことである。声かけされた方々は、街を題材にコミュニケーションが成立し、街歩きが一段と楽しいものとなっていよう。



6. 民芸品を求めて市内外から集める女性達

滑川では31年前から民芸品市(名称はフリーブルー)が年一回秋場(10月)に市中心にあるショッピングモールで開催されていた。しかしモールでは場所が十分確保できずしかも何か落ち着かないとあって、5年前くらいから滑川宿に会場移転した。もちろん、主会場は旧宮崎酒造である。(写真2、8)

ここに、県内外の民芸品作家20-30人がそれぞれにブースを構え、品物を展示即売する。来場者は、これまた県内外から2000-3000人の女性達であり、旧宮崎酒造の大空間がかもしだす伝統と落ち着きの雰囲気の中で民芸品鑑賞を楽しんでいる。そんな鑑賞ムードは家の外にもこぼれしみだし、おかげで街はさながら文化の園と化して賑わっている。



写真8 民芸品市

7. 若者

滑川では、市域の活性化を最終的に目指すいくつかの団体がある。お祭り系、街づくり系、イベント系と盛り沢山である。前方でも述べたが、ハトケマンタ祭りには、若者を中心にして実行委員会が結成され、これを応援する形で、保存会や観光協会が後押しをしている。詳しくは、次報にしたい。

8. おわりに

今回は、街づくり活動にかかわっている方々・させている方々にスポットを当て、滑川宿の営みに参加する訪問者・観光客もまたにわか街人として捉えて、滑川宿の活力を垣間見た次第である。こうした視点で活動を長年続けていると、街づくりの心意気が自然と醸成されていくようであり、これが行政(市役所、観光関係等)や街内外の若者に加え街づくり・建築の専門家にも伝わっていくかのようなのである。もちろん、今後もより充実させた活動を展開していることにしている。皆さま、応援よろしく願いいたします。

なお、次報は、若者と老人との街づくり推進への思いについて扱いたい。